

【普及課】

苫小牧市矢代町3丁目1-18

TEL：0144-72-5123

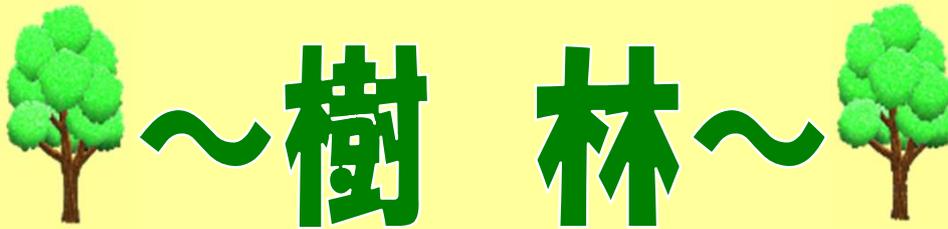
FAX：0144-74-0754

【豊浦事務所】

豊浦町字船見町10 豊浦町役場内

TEL：0142-83-2481

FAX：0142-83-3521



第74回北海道植樹祭が開催されました



芽森

第74回北海道植樹祭が5月19日（日）苫小牧市静川「苫東・和みの森」で開催されました。

同植樹祭は、道民に森林の大切さを広く普及啓発することを目的に昭和25年から継続されている事業で、今年は地域住民、道内各地から参加者約540名がトドマツやアカエゾマツ、エゾヤマザクラ、ヤチダモ、ナナカマド、ハルニレ、ミズナラの苗木1,750本を植えました。



挨拶をする鈴木知事



森林を守り大切に育てていきます！と元気に緑の宣言を行う「苫東・和みの森っ子クラブ」の児童



北海道植樹祭マスコットの芽森（めもりー）ちゃんと子供達のふれあいもありました



式典会場では、木工体験や森の香り体験、林業大学校紹介などが行われました。



胆振地区指導林家連絡協議会が北海道植樹祭を支援しました



胆振地区指導林家連絡協議会の池田指導林家、桔梗原指導林家の2名のほか、岩見沢農業高等学校、北森カレッジの生徒及び関係官公庁職員が植樹活動の運営スタッフとして一般参加者への植樹活動の指導支援を行いました。

植え穴の掘り方や植え付け方法、エゾシカによる食害防止用資材「くわんたい」の設置方法等実演指導した後、一般参加者の植樹のサポートを行いました。



くわんたいの設置



植樹指導を行う池田指導林家

はじめに

洞爺湖・有珠山を中心に支笏洞爺国立公園を含む地区は、2009年日本で初めて世界ジオパークに認定された「生きている地球と生命のとのつながりを楽しく学べる貴重な場所」となっています。

皆さんも洞爺湖や温泉など観光施設を一度は訪れたことがあると思いますが、洞爺湖周辺には、森林関係の見どころがたくさんあり、老三樹（ハリギリ、エゾヤマザクラ、ヤマグワが一株となって生えている）や、湖を一周する道路沿いでは、ミズナラなどの大木をいたる所で見ることができます。

月浦森林自然公園の沿革

月浦地区の開拓は、明治24年（1891年）に愛媛県大州の旧大州藩主加藤泰秋子爵が農場開設と同時に事務所と別荘を建てたことから始まり、その後、農地解放等により、人手に渡るなど荒れ果てた状態となっていました。平成13年虻田町（現：洞爺湖町）がこの地を町有地として購入し、月浦森林自然公園として遊歩道や休憩所を整備し現在に至っています。

月浦のカラマツ

月浦地区正式樹木名は、「ヨーロッパカラマツ」です。明治から大正時代にかけて、経済界で活躍した渋沢栄一がヨーロッパから持ち帰った種子から苗を育て、別荘地であった同地区に植林したものと伝えられています。

- ・推定樹齢130年前後
- ・現存本数37本
- ・平均胸高直径69cm（最大約93cm）
- ・平均樹高約35m（最高40m）

昭和52年の有珠山噴火での降灰により落枝や先折れの被害に耐え忍んだそのたたくまいは、現存本数が少なくなった今でも圧巻です。

最後に

公園内には、洞爺湖畔で最も古いと言われるミズナラの大木（推定600年）や、土地所有者の変遷をたどる中でクルミ科のヒッコリーが植栽された歴史もあり、その特徴ある木の実を探してみるのもよいかと思います。

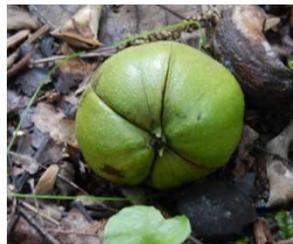
秋には、カラマツの黄葉だけではなく、ヤマモミジやカツラなども深紅色や黄金色に輝き、林内を染めています。皆様も一度は散策にいらして下さい。お待ちしております。

※令和4年度 山づくり地域版に掲載

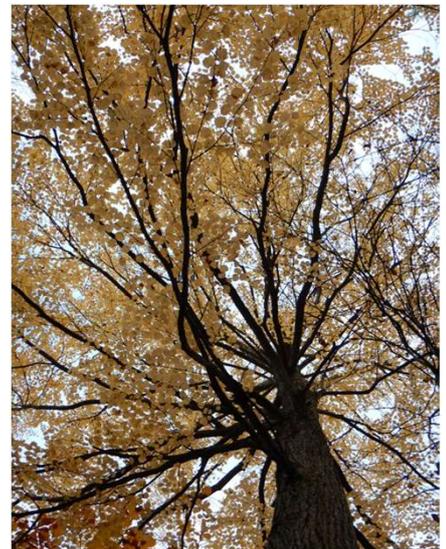
～情報提供／洞爺湖町経済部観光振興課～



▲圧巻のヨーロッパカラマツ



▲ヒッコリーの実



▲カラマツの巨木

人工造林のポイント ～造林地の手入れ 下刈り・ツル切りなど～

造林地は、植えつけたあとも、苗木を早く大きく育てるためや、良質材を生産するために下刈りやツル切り・除伐・間伐・枝打ちなど、いろいろな手入れが必要で、植えっぱなしは不成績のもとになります。

下刈りは適期に

造林地は、放っておくと、ササや雑草が伸びて、苗木の成長をさまたげたり、野ねずみの住みかとなって不成績のもとになるので、これを刈り払ってやる必要があります。

また、下刈りの時に植栽木にからみついたツル類も取り除くことが必要です。

下刈りの必要な期間は、造林木がササや雑草の高さから60～80cmほど抜け出るまで必要です。

また、下刈りは、ササや雑草が一番伸びる6月中旬から8月中旬までに行うのがよいようです。



下刈りの時に植栽木にからみついたツル類も取り除くことが必要です。



ツル切りは、定期的・適期に

造林地は、植栽木にからみついたツル類を放っておくと、材としての価値が低下し低質材となるため、下刈り完了後、造林地にもよりますが、3～5年に一度はツル切りを行いましょう。

また、ツル切り作業は、ツルの繁茂する7月に行うのがよいようです。



ツルを切らないで放置していたトドマツ

手入れの基準

林齢・齢級 樹種	林 齢										齢 級							
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	III	IV	V	VI	VII	VIII	IX	
カラマツ	■	■	■								○	○	○					
トドマツ	■	■	■	■	■							○	○					
アカエゾマツ	■	■	■	■	■						○	○	○	○				

※注 ■ 下刈り(1回～2回刈り) ■ 枝打ち ■ 除伐 ■ 間伐

○印は期間内(着色部)の実施回数を示す。

IX齢級までの手入れの基準を示す(1齢級は5年)



～林業労働安全確保マニュアルについてご紹介～

こちらのマニュアルは主として小規模経営体の皆様に向け、安全対策のポイントを分かりやすくまとめたマニュアルです。

「安全ミーティングで使いやすいものを」と考えられ、本編は文字による解説を必要最小限にとどめ、イラスト中心で1ページ1話となっています。

法令や各種ガイドラインに示されている遵守事項、作業時の安全規範、安全対策の具体的な実践手法などについて、専門家や実践者の知見も集めてまとめています。小規模経営体に限らず、林業の現場作業に従事するすべての方がご活用できる内容となっており、PDFで無料公開されていますので、ぜひご活用ください。

「1ページ1話ミーティングに使える林業労働安全確保マニュアル」

編集・発行/ (一社) 全国林業改良普及協会

A4版PDF 66ページ (林野庁補助事業で作成)

以下よりダウンロードしてください。(PDFで無料公開中)

www.ringyou.or.jp/publish/detail_1883.html



最近の木材市況

～道林業木材課調べ 2024年4月現在～

道内の原木流通の動向

○エゾ・トド原木入荷は、引き続き概ね順調。入荷量は減少傾向。市況は弱含み～強保合。

○カラマツ原木は、引き続き概ね順調。入荷量は減少傾向。市況は弱含み～強保合。

樹種	材長(m)	径級(cm)	m ³ 当単価(円)	前月差(円)	100石当単価(円)
カラマツ	3.65	9～13	8,000	△1000	222,400
〃	3.65	14～18	9,500	200	264,100
〃	3.65	20～28	10,800	200	300,240
〃	3.65	30上	12,000	△100	333,600
〃	パルプ		6,500	200	180,700
トドマツ	3.65	14～18	9,800	0	272,440
〃	3.65	20～22	11,200	0	311,360
〃	3.65	24～28	12,400	△200	344,720
〃	3.65	30上	13,300	△300	369,740
広葉樹	パルプ		9,000	0	250,200

